

2017年3月期 連結決算について

- 2017年3月期(2016年度)連結決算は、前期比「減収増益」。航空機発着回数、国際線及び国内線発着回数、航空旅客数、国際線外国人旅客数、国内線旅客数は開港以来最高を記録。航空機発着回数は増加したものの、航空機材の小型化に伴う機材重量の減少等により空港使用料収入は減収。一方、引き続き旺盛な訪日需要を背景に国際線外国人旅客数が増加したこと等に伴い、旅客施設使用料収入は増収。また、物販・飲食収入、構内営業料収入は、いわゆる「爆買い」沈静化等の影響に伴う減収を、下期における新規店舗のオープンや販売促進施策等による増収で補ってきたものの、結果として減収となり、営業収益は減収、営業利益、経常利益は減益。
- 親会社株主に帰属する当期純利益(以下、「当期純利益」という)は、法人税等調整額の減少等により増益となり、民営化以降最高を更新。
- 2018年3月期(2017年度)連結業績予想は、航空機発着回数、航空旅客数ともに増加し「増収増益」、営業収益、当期純利益は、民営化以降最高を更新する見通し。

1. 航空取扱量について

区 分	2015年度	2016年度	増減①		2017年度	増減②	
	実績	実績	数量	%	見通し	数量	%
	A	B	B-A	B/A×100	C	C-B	C/B×100
航空機発着回数(万回)	23.5	24.6	1.1	104.5	25.6	1.0	104.1
国際線	18.4	19.3	1.0	105.3	19.9	0.6	103.1
国内線	5.2	5.2	0.1	101.4	5.6	0.4	108.0
航空旅客数(万人)	3,794	3,962	168	104.4	4,060	98	102.5
国際線	3,106	3,241	135	104.4	3,279	38	101.2
国内線	689	721	32	104.7	781	60	108.3
国際航空貨物量(万トン)	198	214	16	108.0	216	2	100.7
給油量(万kl)	457	455	△2	99.5	440	△15	96.6

(注)航空取扱量は、単位未満を四捨五入して表示しております。

(1) 2016年度の実績【増減①】

- 航空機発着回数は、韓国線、香港線、中国線を中心としたアジア方面における新規就航や増便等により前期に比べて増加、5期連続で開港以来最高値を更新。
- 航空旅客数は、引き続き旺盛な訪日需要を背景に国際線外国人旅客が大きな伸びを示したことに加え、国内線旅客も好調に推移したことから、前期に比べて増加、2期連続で開港以来最高値を更新。
- 国際航空貨物量は、仮陸揚貨物量が好調に推移したこと等から前期に比べて増加。
- 給油量は、近距離・小型機材路線が増加した一方、長距離・大型機材路線の減少等に伴い前期に比べて減少。

(2) 2017年度の見通し【増減②】

- 航空機発着回数は、引き続きアジア方面における新規就航や増便等により前期を上回る見通し。
- 航空旅客数は、引き続き旺盛な訪日需要を背景に国際線外国人旅客が堅調に推移することから、前期を上回る見通し。
- 国際航空貨物量は、仮陸揚貨物量が引き続き好調に推移すること等から、前期を上回る見通し。
- 給油量は、航空機発着回数は増加するものの、近距離・小型機材路線が増加し、長距離・大型機材路線が減少すること等から、前期を下回る見通し。

2. 連結決算について

(単位:億円)

区 分	2015 年度	2016 年度	増減		2017 年度	増減	
	実績 A	実績 B	金額 B-A	% B/A×100	予想 C	金額 C-B	% C/B×100
営業収益	2,184	2,174	△10	99.5	2,273	98	104.5
営業利益	433	414	△18	95.7	385	△29	92.9
経常利益	385	372	△12	96.7	346	△26	92.8
当期純利益	242	253	10	104.5	294	40	116.0

(注)業績予想は、当社が現時点で想定した航空取扱量等に基づき作成したものであり、不確定要素を含んでおります。

(1) 経営成績の概要

営業収益は 2,174 億円(前期比 10 億円、0.5%の減少)、営業利益は 414 億円(同 18 億円、4.3%の減少)、経常利益は 372 億円(同 12 億円、3.3%の減少)、当期純利益は 253 億円(同 10 億円、4.5%の増加)となり、「減収増益」(当期純利益は民営化以降の最高を更新)

<セグメント別決算概要>

(単位:億円)

科目	2015 年度	2016 年度	増減	
	実績 A	実績 B	金額 B-A	% B/A×100
営業収益※	2,184	2,174	△10	99.5
空港運営事業	1,037	1,052	14	101.4
リテール事業	813	788	△25	96.9
施設貸付事業	303	303	△0	99.9
鉄道事業	29	29	0	101.6
営業利益	433	414	△18	95.7
空港運営事業	49	43	△5	88.6
リテール事業	244	223	△21	91.3
施設貸付事業	136	141	5	104.0
鉄道事業	6	6	0	102.9
経常利益	385	372	△12	96.7
当期純利益	242	253	10	104.5

※外部顧客に対する売上高

- ▶ 空港運営事業：韓国線、香港線、中国線を中心としたアジア方面における新規就航や増便等により航空機発着回数は増加したものの、航空機材の小型化に伴う機材重量の減少等により空港使用料収入は減収となったが、引き続き旺盛な訪日需要を背景に国際線外国人旅客数や国内線旅客数の増加等に伴い旅客施設使用料収入が増収となったことから、営業収益は前期比 1.4%増の 1,052 億円、営業利益は退職給付費用等の不可避的な費用等の増加により同 11.4%減の 43 億円と「増収減益」。
- ▶ リテール事業：「爆買い」沈静化等の影響に伴う減収を、下期における新規店舗のオープンや販売促進施策等による増収で補ってきたものの、結果として減収となり、営業収益は前期比 3.1%減の 788 億円。営業利益は同 8.7%減の 223 億円と「減収減益」。
- ▶ 施設貸付事業：営業収益は前期比 0.1%減の 303 億円。営業利益は、前年度に貨物ターミナルビルの修繕費を計上したこと等により、同 4.0%増の 141 億円と「減収増益」。
- ▶ 鉄道事業：営業収益は前期比 1.6%増の 29 億円。営業利益は同 2.9%増の 6 億円とほぼ前期並み。

(2) 財政状態の概要

(単位:億円)

科目	2015 年度期末	2016 年度期末	増減	
	実績 A	実績 B	金額 B-A	% B/A×100
流動資産	579	592	12	102.2
固定資産	7,962	7,697	△265	96.7
資産合計	8,542	8,289	△252	97.0
流動負債	1,115	1,001	△114	89.8
固定負債	4,471	4,158	△313	93.0
負債合計	5,587	5,160	△427	92.4
純資産合計	2,954	3,129	174	105.9

- 資産合計は、設備投資による増加以上に減価償却が進み固定資産が減少したことから、前期末比 252 億円(3.0%)減の 8,289 億円。
- 負債合計は、長期借入金の返済等により前期末比 427 億円(7.6%)減の 5,160 億円。有利子債務残高は、同 208 億円(4.6%)減の 4,370 億円、平均金利は前期末比 0.18 ポイント低下し、0.88%。無利子債務を加えた長期債務残高は、同 319 億円(6.7%)減の 4,424 億円。
- 純資産合計は、前期末比 174 億円(5.9%)増の 3,129 億円。自己資本比率は、前期末の 33.5%から 36.8%へ増加。

<連結長期債務の推移>

(単位:億円)

科目	2015 年度期末	2016 年度期末	増減		平均金利	
	実績 A	実績 B	金額 B-A	% B/A×100	2015 年度 期末	2016 年度 期末
有利子債務	4,579	4,370	△208	95.4	1.06%	0.88%
社債	3,409	3,459	50	101.5	1.18%	1.04%
長期借入金	1,169	910	△258	77.9	0.69%	0.27%
無利子債務						
長期借入金	164	53	△111	32.5	—	—
合計	4,744	4,424	△319	93.3		

(3) キャッシュ・フローの概要

(単位:億円)

科目	2015 年度	2016 年度	増減
	実績 A	実績 B	金額 B-A
営業活動によるキャッシュ・フロー	662	678	15
投資活動によるキャッシュ・フロー	△446	△258	187
フリー・キャッシュ・フロー	216	419	203
財務活動によるキャッシュ・フロー	△247	△412	△165

- フリー・キャッシュ・フローは、419 億円のキャッシュ・イン(前期比 203 億円の増加)
 - 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益が減少したものの、前年度に第3旅客ターミナルビル工事に係る関連費用の支払があったこと等により、前期比 15 億円増の 678 億円のキャッシュ・イン。
 - 投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の取得による支出が減少したこと等により、前期比 187 億円減の 258 億円のキャッシュ・アウト。
 - 財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済による支出の増加等により、前期比 165 億円増の 412 億円のキャッシュ・アウト。

(4) 2017年度の連結業績予想

営業収益は2,273億円(前期比98億円、4.5%の増加)、営業利益は385億円(同29億円、7.1%の減少)、経常利益は346億円(同26億円、7.2%の減少)、当期純利益は厚生年金基金の代行返上益の計上もあり、294億円(同40億円、16.0%の増加)となり、営業収益、当期純利益は民営化以降の最高を更新し、「増収増益」となる見通し

<セグメント別連結業績予想>

(単位:億円)

科目	2016年度	2017年度	増減	
	実績 A	予想 B	金額 B-A	% B/A×100
営業収益※	2,174	2,273	98	104.5
空港運営事業	1,052	1,044	△8	99.2
リテール事業	788	903	114	114.5
施設貸付事業	303	296	△7	97.6
鉄道事業	29	29	△0	97.2
営業利益	414	385	△29	92.9
空港運営事業	43	9	△34	20.7
リテール事業	223	242	18	108.2
施設貸付事業	141	130	△11	91.7
鉄道事業	6	5	△1	79.1
経常利益	372	346	△26	92.8
当期純利益	253	294	40	116.0

※外部顧客に対する売上高

(注)業績予想は、当社が現時点で想定した航空取扱量等に基づき作成したものであり、不確定要素を含んでおります。

- 空港運営事業は、航空機発着回数は増加するものの、航空機材の小型化に伴い空港使用料収入や給油施設使用料収入は減収。一方、国際線外国人旅客数が引き続き堅調に推移すること等から旅客施設使用料収入は増収を見込むが、営業収益全体としては減収となる見込み。また、空港施設の安全・安定運用のための修繕維持や機能強化に係る環境影響調査等の費用増により、結果として「減収減益」となる見通し。
- リテール事業は、国際線外国人旅客数が引き続き堅調に推移することに加え、2016年度における開業店舗(ナリタ5番街、Narita Dining Terrace)の通年化や新規店舗のオープン等により、「増収増益」となる見通し。
- 施設貸付事業は、駐車場の立体化工事に伴う一時閉鎖の影響等により営業収益は減収となる見込み。また、駐車場の精算機更新工事に伴う関連費用や燃料費調整単価の上昇による水道光熱費の増加等により、「減収減益」となる見通し。
- 鉄道事業は、ほぼ前期並みとなる見通し。

以上

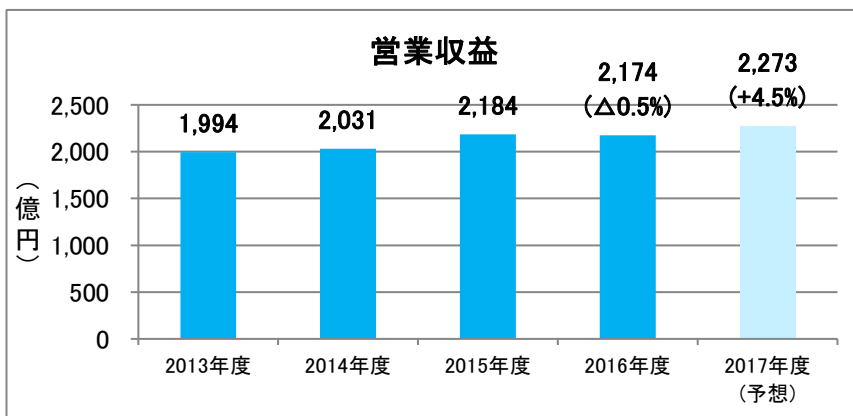
NAA 成田国際空港株式会社

〒282-8601 千葉県成田市成田国際空港内 NAAビル

URL: <http://www.narita-airport.jp/jp/>

参考

【連結決算推移】 — 「減収増益」は、2009年度決算以来、7期ぶり —



<2016年度>

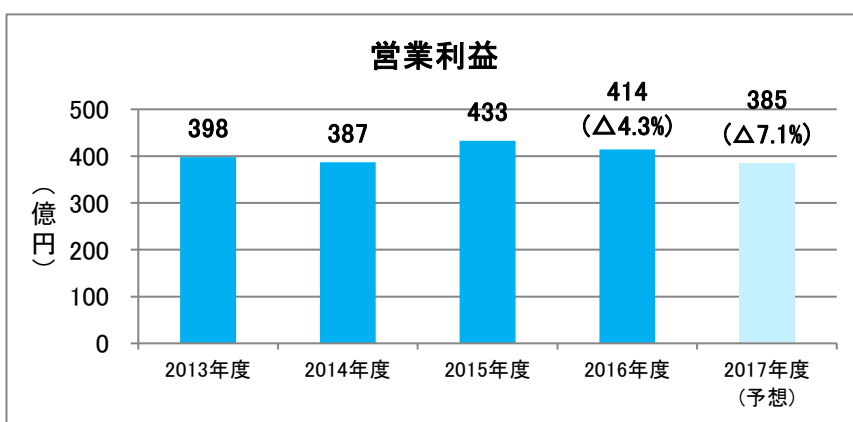
・5期ぶりの減収

<2017年度>

・民営化以降の最高を更新する見通し

<これまでの民営化以降最高>

・2015年度 2,184億円



<2016年度>

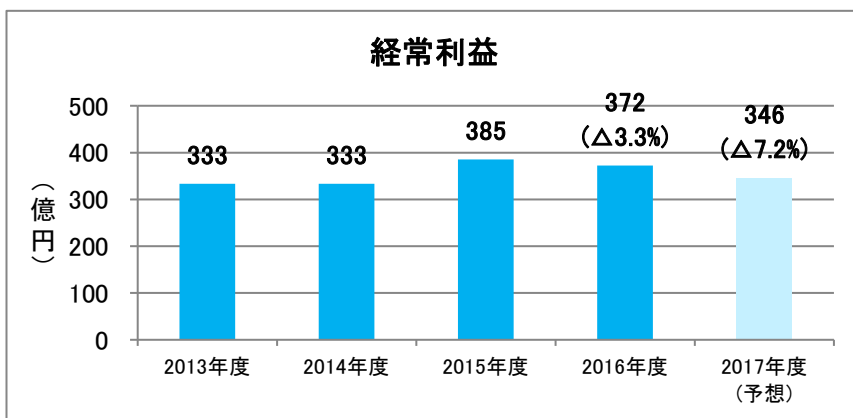
・2期ぶりの減益

<2017年度>

・2期連続で減益となる見通し

<これまでの民営化以降最高>

・2015年度 433億円



<2016年度>

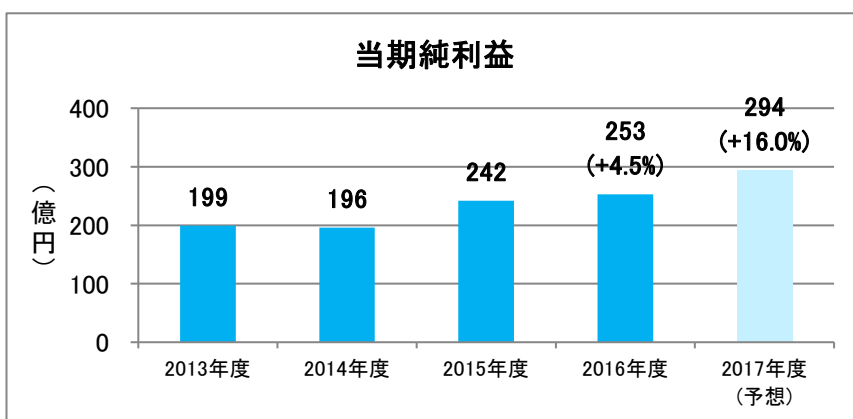
・5期ぶりの減益

<2017年度>

・2期連続で減益となる見通し

<これまでの民営化以降最高>

・2015年度 385億円



<2016年度>

・2期連続で民営化以降の最高を更新

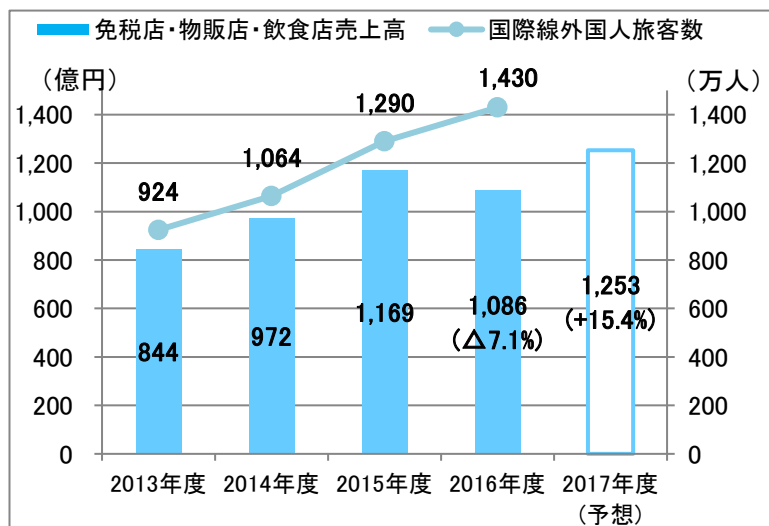
<2017年度>

・民営化以降の最高を更新する見通し

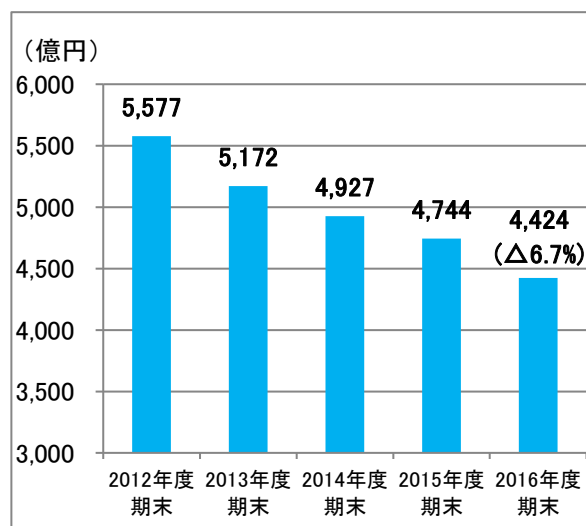
<これまでの民営化以降最高>

・2015年度 242億円

【空港内免税店・物販店・飲食店売上高推移】



【連結長期債務残高の推移】



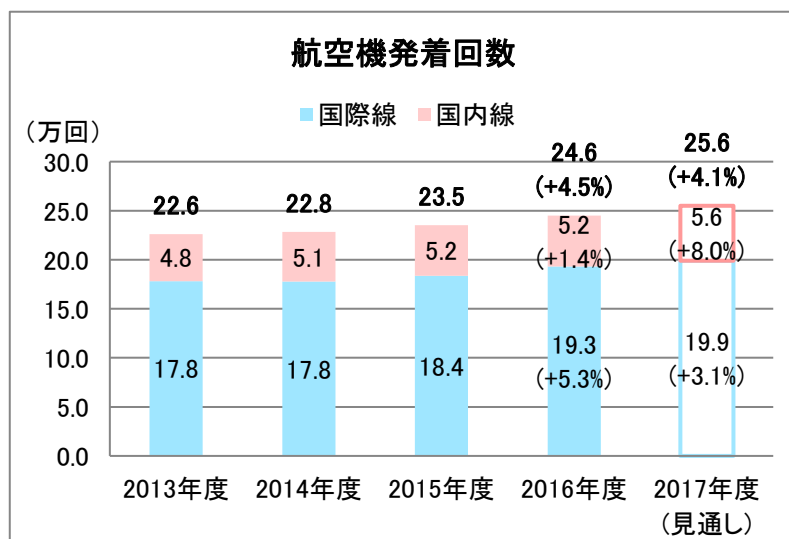
【空港内免税店・物販店・飲食店売上高推移】

<2016 年度> ・5 期ぶりに減少

<2017 年度> ・民営化以降最高を更新する見通し

<これまでの民営化以降最高> ・2015 年度 1,169 億円

【航空取扱量推移】



<2016 年度>

・5 期連続で開港以来最高値を更新

(国際線)・2 期連続で開港以来最高値を更新

(国内線)・15 期連続で開港以来最高値を更新

<2017 年度>

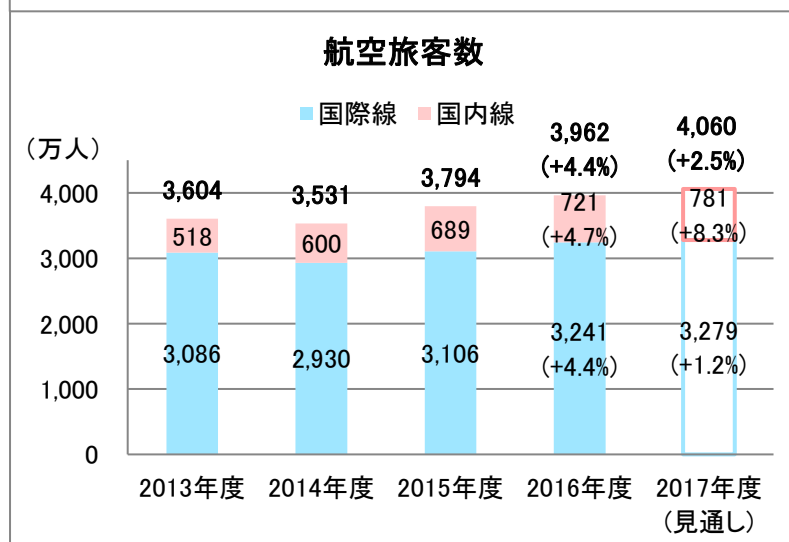
・いずれも開港以来最高値を更新する見通し

<これまでの過去最高値>

・全体:2015 年度 23.5 万回

・国際線:2015 年度 18.4 万回

・国内線:2015 年度 5.2 万回



<2016 年度>

・2 期連続で開港以来最高値を更新

(国内線)・8 期連続で開港以来最高値を更新

<2017 年度>

・航空旅客数全体及び国内線旅客数に

おいて開港以来最高値を更新する見通し

<これまでの過去最高値>

・全体:2015 年度 3,794 万人

・国際線:2006 年度 3,419 万人

・国内線:2015 年度 689 万人